

# 日本近代文学館

題字・高見順

No.284  
2018.7.15

新年度がスタートして、今年も全国文学館協議会総会が当館でひらかれ、全国の新鮮な息吹が交換された。

私共も最近のうれしいニュースを披露できた。遅ればせながら、館の所蔵する「図書」「雑誌」「写真」資料の検索に加えて、「原稿」「ノート」「書簡」などの特別資料の検索が、ホームページから出来るようになったことである。

簡単な登録さえしていただければ自宅のパソコンから、当館の膨大な資料のリストが画面に表示される。すでに神奈川県

近代文学館などで実施されている資料検索の方法を学び、この五月から駒場でも可能になったのである。

例えば私にとってどんなことができらるだろう。加藤道夫の名前は今大切に持っているが、一九九八年に加藤治子夫人から寄贈された三〇〇点以上の「加藤道夫コレクション」の全貌はどうやって解き明かされるべきか。ホー

## □ 駒場ノート 42

### 文学館を資料発見の場へ

坂上 弘

川方夫文庫」だが、所蔵の五四〇点余り

の資料が閲覧可能であり高校教科書にも使われている山川作品の秘密をさぐるのも楽しい。

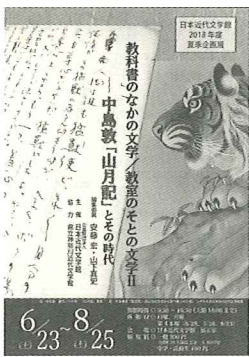
多くの方々のご厚意で所蔵できた貴重な資料だが、今回の当館の特別資料検索の実現は、研究者にとっていつもの発見と研究につながる、画期的なことであると思う。

(館理事長)

## 教科書作品シリーズ展Ⅱ 中島敦「山月記」とその時代

八月二十五日(土)まで、夏季企画展「教科書のなかの文学/教室のそとの文学Ⅱ 中島敦「山月記」とその時代」(編集・安藤宏、山下真史/協力・県立神奈川近代文学館)を開催中である。昨夏には芥川龍之介「羅生門」をとりあげ好評を博した教科書作品を深く知るシリーズの第二弾。

第一部「山月記」の世界」では作品の魅力や創作の背景を紹介、第二部「中島敦の生きた時代」では作家の生きた関東大震災から昭和十代にかけての文学史と、ゆかりの深い南洋・アジアの地との関わりを中心に展観する。学校の先生方へ教室で読む際の新しい論点、新しい味わい方を提示しつつ、若い世代へ向け、来て見て楽しむ「山月記」をテーマに、複製原稿、写真、初版本、地図など、作家と物語をめぐる多彩な資料を用い分かりやすく構成・解説した。



今年の夏  
休みは友人  
同士で、親  
子で、先生  
と、ぜひ日  
本近代文学  
館へご来館  
ください。

観覧料三〇〇円(中学・高校生一〇〇円)

↓6・7面に紹介記事

- 駒場ノート 文学館を資料発見の場へ..... 坂上 弘
- 文学館の風景 はい、ご湯灌でございます..... 上野 登
- わたしの蔵書から 本の海で..... 潮田 登
- リトルマガジンは今 「gui」いつも誰かが笑っていた..... 奥 成
- 展示室から 教科書のなかの文学/教室のそとの文学Ⅱ..... 安藤宏・山下真史
- 中島敦「山月記」とその時代..... 安藤宏・山下真史
- 浅草文芸展 「文学」が関わると、浅草は戻りたくなる場所になる..... 金井 景子
- 短信 「赤い鳥」創刊百年を迎えて..... 藤田のぼる
- 短信 昭和女子大学「近代文庫」の六十年..... 吉田 昌志
- 図書・資料受入れ報告
- 所蔵資料研究—作家の手紙 井上満資料から 神西清宛書簡



北原白秋と恩地孝四郎の福岡  
—大阪飛行 昭和3年7月

今月の一枚